

自分の思いや考えを生き生きと伝え合う読書活動の実践

鹿児島市立宮小学校 学校司書 藤崎 由美子

I はじめに

今年度で創立144周年を迎える本校は、教育目標「ともに学び、深く考え、仲間と助け合い、たくましく生きる宮の子の育成」のもと、在籍数92名、8学級という小規模校のよさを生かし、教児一体となった教育活動を推進している。鹿児島市の北西部に位置する校区には、県総合教育センターや県立青少年研修センターがあり、教育環境や自然環境に恵まれているため、特認校制度を利用して他校区から通学する子供も多い。

読書活動については、学校経営の重点として位置付け、公共図書館や家庭と連携を図りながら推進している。学校の読書目標冊数を1・2年生120冊、3・4年生100冊、5・6年生80冊に設定するとともに、個人読書目標も設定させており、各自の読書目標達成に向けて更なる読書意欲の向上が図られるように努めている。

II 読書活動の実際

1 学校図書館の環境整備

- (1) 季節(旬)を意識した図書館入口や館内の設営・資料提示の工夫
- (2) 日常の出来事の中から調べ学習へと探究心を引き出す館外展示の工夫
- (3) 書架の高さやゆとりあるスペースに配慮した館内レイアウトの工夫

2 課題読書の取組

学年段階に応じて多くの優れた本に出会わせるため、次の6点に取り組んでいる。

活動名	活動内容(○)及び選書等の留意点(※)
並行読書	○ 国語科の学習と関連付けた課題読書 ※ 教科書の関連図書をリストアップし、実施する単元を教育課程に明記
「心のつぼ」ブックリスト	○ ブックリスト化した生命尊重に関する図書の読破チャレンジ ※ 学年別に10冊を選定し、リスト化
SDGsブックリストチャレンジ	○ SDGsに関する本の読破チャレンジ ※ SDGsの17の目標に合わせて選書
宮小発明王チャレンジ	○ 科学に関する本の読破チャレンジ ※ 「科学道100冊」の寄贈図書を活用
ハッピーブック	○ 将来の夢や希望につながる本の読破チャレンジ ※ キャリア教育の観点から選書
課題図書・指定図書の取組	○ 読書感想文・読書感想画への取組に合わせた読書 ※ 当該年度の課題図書・指定図書を予算に応じて購入



【SDGsコーナー】



【発明王チャレンジコーナー】

3 自由読書の取組

読書意欲を高めるとともに、読書の幅を広げたり、多様な読書表現を経験させたりするため、次の6点に取り組んでいる。

(1) 読書紹介

ア 読み聞かせ……読書ボランティア、図書委員会、担任や保護者など多方面から実施

イ ペア読書ゆうびん……異学年とのペアでおすすめの本を紹介

ウ 読書郵便……鹿児島市立図書館の「読んでみ展！」へ出展

エ P O P 作成……ポプラ社学校図書館POPコンテストへの応募

オ ミヤスタグラム……キーワードをハッシュタグにした本の紹介カード

(2) 読書カルテの作成と活用

一人一人の読書傾向を数値化した個票を作成し、読書の幅を広げる個別の声掛けに活用している。

(3) 「毎月23日はみんなでいっしょに読書の日」読書ファイル

家庭での読書時間の確保に向けた、カードの記入とファイリングの取組

(4) 読書イベント

ア 講演会の実施……絵本作家との交流

イ 読書運動会……紅白に分かれた読書冊数の掲示

ウ 読書集会やワークショップ……エプロンシアターやしおり作り

(5) 公立図書館との連携

ア 市立図書館移動図書……月に2回程度

イ 吉田公民館よしだ読書まつり……毎年2月

(6) 地域との連携

ア 放課後子ども教室での読み聞かせや郷土カルタ

イ こども食堂「宮っ子」での読み聞かせ

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- (1) 学校・家庭・地域が一体となって、絵本中心の読書から多様な読書活動への転換を図った結果、平均読書冊数が増え、本好きな子供も増えてきた。
- (2) 様々なイベントを行うことで、読書の幅が広がり、読書の質も向上した。
- (3) 並行読書ではブックトークを取り入れることで、子供がブックリストの本に興味をもち、自ら読み進める姿が見られるようになった。
- (4) 並行読書をすることで、これから学習する教材文との共通点や選書のテーマを知ることができるようになり、教材の理解が深まった。
- (5) 子供の実態に応じた多様な読書表現の方法を見出すことができた。
- (6) 担任と連携することで、学校図書館を活用した授業展開が増加している。

2 課題

- (1) 調べたい本を自ら探し出す力を育む必要がある。
- (2) 特別な支援を要する子供が多く、物語などの長文を苦手とする子供も多い。一人一人が読書を楽しむことができるように、子供の実態に応じて、ブックリストの見直しや個別の本の紹介を推進していく必要がある。
- (3) 読書指導担当者を中心に、各担任と日頃からコミュニケーションや連携を図り、子供一人一人に寄り添った読書指導を一層展開していく必要がある。